



彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。

ローマ人への手紙3章24節

黙 禱	
讃美歌	2 2
主の祈り	9 3 - 5 A (讃美歌21 P.146)
讃美歌	2 8 8
聖 書	ローマ人への手紙3章21節～31節(新約聖書P.236)
祈 禱	
使徒信条	9 3 - 4 A (讃美歌21 P.148)
讃美歌	3 0 3
奨 励	「神の義」
讃美歌	4 5 1
頌 栄	2 4

奨励〔要約〕

ユダヤ教から改宗した人たちは、信仰を求める異邦人に律法に従って割礼を求めました。このような問題を受けて、パウロは福音を順序立て教え、人の罪を明らかにして、律法を行うことで神様の御前に義とされないこと、罪を自覚させるだけであること、神様の義によって罪の赦しがあり、ただ信仰による救いを示しました。私たちは、毎日のように大なり小なり多くの罪を犯すのではないのでしょうか。イエス様は、聖霊が「罪と義とさばきとについて世の人の目を開く」(ヨハネ16:8)と言われたように、信仰が与えられなければ、罪の恐ろしさに対して何の感覚もありません。私たちの罪は、神様の御前に覚えられ、善人のように振る舞っても、自分の中からも消えることはありません。罪から逃れられず、死と永遠の滅びにおびえ、神様の怒りと裁きの前に為す術がないのです。そんな私たちに対して「福音」は救いを得させる神様の力である(1:16)、「神の義」は福音の中に啓示されている(1:17)、旧約聖書全体に証しされているのです。イスラエルは、神様に対して不信仰、反逆の歴史を刻んでいます。荒野の青銅のへびの出来事は、神様の言葉に従って、へびを見上げた人は生かされました(民数21:4~9)。イエス様は、青銅の蛇はご自身の予表(ヨハネ3:14)と言われました。イエス様の十字架の贖いには「神の義」が示され、私たちに信仰を与え、その信仰によって、私たちを義(義でない者を神様の命で支配し義人を造り出す)として下さるのです。パウロは「人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰による」と繰り返し教えています。私たちは、律法学者のように、自分で努力することが必要である、律法を守らなければならないと考える傾向があるからではないのでしょうか。律法は、罪人を赦し、救うことはできません。罪人の赦しは「神の義」によるものです。その源には、ひとり子を賜るほどの愛によるからなのです(ヨハネ3:16)。放蕩息子や、良きサマリヤ人の譬のように、どんなに罪に汚れ、弱り果てても、神様の憐れみは私たちに注がれているのです。神様の恵みは、キリストと共に私たちを新たに生かす力となるのです(エペソ2:5)。そのとき、神様に従うことが喜びとなるでしょう。

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。(Iテサロニケ5:16~17)